

千葉經濟大學短期大學部

平成17年度第三者評価 機関別評価結果

平成18年3月23日

財団法人 短期大學基準協會

千葉経済大学短期大学部

評価短期大学の概要

設置者 学校法人 千葉経済学園
理事長 佐久間 勝彦
学 長 佐久間 勝彦
A L O 池田 宏樹
開設年月日 昭和 43 年 4 月 1 日
所在地 千葉県千葉市稲毛区轟町 4-3-30

設置学科および入学定員（募集停止を除く）

学科	専攻	入学定員
ビジネスライフ		200
こども		150
	合 計	350

専攻科および入学定員

なし

機関別評価結果

1. 機関別評価結果

千葉経済大学短期大学部は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成 18 年 3 月 23 日付で適格と認める。

2. 機関別評価結果の事由

千葉経済大学短期大学部の設置母体である学校法人千葉経済学園は、大学、幼稚園等を擁する学校法人であり、昭和 43 年に当該短期大学の前身である千葉経済短期大学を設置した。平成 5 年、現在の名称である千葉経済大学短期大学部と校名が変更され、今日では、ビジネスライフ学科、こども学科の 2 学科を設置している。

平成 17 年 1 月 20 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

学園創設時に徳育重視の教育を目指して「片手に論語、片手に算盤」を校訓に掲げた建学の精神は、短期大学発足に際して「良識と創意」という新しい校是に引き継がれ、現在に至っている。こうした教育理念は学則第一条にも明記され、学生・教職員はもとより、受験生・地域社会に対しても広く周知を図る努力がなされている。各学科の教育目的・目標も明確に設定され、その達成状況については、学科会議や教授会、授業事例研究会、授業相互参観、学生の授業評価アンケート等を通じて把握されている。

教育課程は、建学の精神・教育理念に基づいて定められた教育目的・目標の達成を目指すものとなっており、学科の特質や学生の実態、資格、免許への付加価値、学生の多様なニーズ等へ対応するとともに、教養教育と専門教育にバランスを取りながら体系的に編成されている。専門教育においては、多様な授業科目と柔軟な選択制等の導入が図られているなど、専門性ととともに多様性、総合性を重視するカリキュラム編成が行われている。

各科目の授業内容・方法についても、授業要項（シラバス）において授業目標、計画・内容が明確かつ分かり易く説明されており、また、学生による授業評価アンケートの実施、教授会メンバーによる授業事例研究会や授業相互参観等を通じて、その改善が図られている。資格取得についても、学生のニーズに応えるべく授業科目と関連をさせ支援する体制

をとっている。

入学志願者に対しては、多様な情報提供を行っており、入学後は、履修ガイダンスを展開し、履修相談コーナーを設置しているほか、生活面や進路指導の面についても、適切な組織的支援体制を整備し、学園独自の奨学資金制度の創設等、創意工夫を生かした取り組みを展開している。

教員の研究活動は個人研究、共同研究ともに多くの実績をあげている。また、研究紀要を毎年1回発行し研究活動状況を公開している。個人研究、共同研究それぞれに対して助成制度が設けられているなど、研究を進めるための研究環境も整備されている。

「地域に開かれた大学づくり」を基本理念として、地域住民や教育現場の教員を対象にした多くの活動を実践し成果を上げている。また、社会活動やボランティア活動等で顕著な活躍をした学生に対して表彰制度を設け意欲を高めている。国際交流に関しても、毎年行い、授業参観、学生交流、ホームステイ等を通じて交流を深めている。

理事長を頂点とする管理運営体制が確立しており、現在は学長が理事長を兼任し、しかも学長は各種審議に関与しているため、理事会と教授会の対立もなく、円滑な大学運営が行われている。教授会は、学則や教授会規則の規定に則って適切に運営されており、各種委員会も学則や諸規程に基づき学長の指示により適切に業務を執行している。

事務については、キャンパスが分かれてはいるものの平成12年に大学事務組織と短期大学事務組織が一体化され、事務能率の向上が図られている。

予算編成および執行は規定に基づいて的確に業務が実施されている。財務内容は健全性を維持しており、財務状況の公開についても、私立学校法の改正に合わせて、必要な対応策が講じられている。施設設備については各種の規程等を設けて適正な整備・管理に努めており、防災対策等についても適正に対応している。

自己点検・評価活動の実施体制は確立しており、全教職員による点検・評価活動を基本としつつ、定期的に報告書にまとめられて、各短期大学、関係機関等に送付されている。

3. 優れている点及び向上・充実のための課題

(1) 優れていると判断される事項

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- ・ 建学の精神や教育理念を明確に示すため、校門付近に「良識と創意」の校是が刻まれた石碑が設置され、日常的に学生や教職員の目に触れるよう配慮されている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- ・ ビジネスライフ学科では、学生が8つのフィールドの中から自分の進路にあったフィールドを選択できるようになっており、学生の多様なニーズに応える工夫がなされている。

- ・ 情報教育においてコンピュータリテラシーからコンピューターアート等最新の技術まで多岐にわたる科目が開設されている。
- ・ 国際理解教育としてハワイ大学カウアイコミュニティ・カレッジとの教育提携による相互訪問が実施されている。
- ・ 授業改善に関する取り組みとして実施されている毎月 1 回の授業事例研究会、授業参観週間を設定しての相互授業参観、事後の研修等は、学生の視点に立った授業づくりへの効果的な活動であると考えられる。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- ・ 学習評価についての共通認識を高め、教授方法の改善を図るために、定期的に全授業科目の単位認定状況及び評価実態の一覧表を作成して全教員に配付し、評価方法及び授業の改善に生かそうと努力している。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- ・ 地域のこどもたちを対象として実施されている「こども造形教室」は過去 12 年間にわたって優れた実績を挙げており、特色ある大学教育支援プログラム(特色 GP)にも採択されている。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- ・ 卒業後の評価については、平成 17 年にはじめて 300 名の卒業生を対象にアンケート調査が実施されたが、今後こうした調査結果が教育内容・方法の改善充実に活用されることを期待したい。

評価領域Ⅸ 財務

- ・ こども学科における定員超過を是正されたい。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし